

## 遺伝毒性試験対象物質の絞り込みの方針

(平成 25 年度第 1 回遺伝毒性評価 WG 確認版)

遺伝毒性評価ワーキンググループの評価により、遺伝毒性「あり」と判断されるがその強さの程度が判断できない物質及び遺伝毒性が判断不可な物質、並びに、構造活性相関の結果が「+」であった物質について、国の委託事業により遺伝毒性試験（細菌突然復帰変異試験）を行う。

その際、労働者ばく露の観点から優先順位付けを行うこととし、試薬の入手性にも考慮しつつ、次の（１）～（３）を総合的に判断する。

### （１）国内の製造・輸入量

量が多い物質を優先。

### （２）用途

幅広い用途で使用される物質や、開放系での使用が予想される物質を優先。

### （３）物理化学的性質

常温で気体、液体、粉状の物質を優先。

特に液体については、蒸気圧の高い物質を優先。